

2016年11月15日

奈良県葛城市主催「葛城発信アート FAIR2016」参加について

文責：大阪商業大学宮城ゼミナール

総合経営学部商学科 2年 朝 田 光 雄

総合経営学部経営学科 2年 東 弘 祥

現在、日本は人口減少や少子高齢化が進んでいます。その中で、観光客獲得による消費の増加により、地域が活性化されるといった経済的効果、並びに地域に点在する文化の見直し等といった社会的効果という理由から観光が注目されています。私たち宮城ゼミナールは、観光が抱えている問題の解決策を見出し、自らが率先してそれを遂行していく能力をつけるという目標を持っています。その目標に近づくため、今回、葛城市の魅力を発見し発信することを目的とし、新たなアートの魅力を共感できるように考えた「葛城発信アート FAIR2016 (2016年9月27日～10月2日)」に参加させていただきました。

私たちはその中で北の門案内所にて受付の手伝いや展示作品やスタンプラリーの準備を手伝い、10月2日にはゼミ生2、3年が中心にゆうあいステーションでリコージャパンが出展した THETA<写真 1 >という新型のカメラを体験することができるという企画に参加させていただきました。

<図 1> 葛城発信アート FAIR2016 の会場について

(當麻寺周辺古民家の会場情報は、詳細が決まりましたらWEBサイト等でお知らせします。)



<写真 1> <THETA>



出所：<http://katsuragi-artfair.com/area/> (2016/11/15 参照)

THETA というのは 360° を撮影することのできるカメラです。そのカメラを五台用意し、そのカメラ一台につき数名がペアとなり、説明をしながら 15 分間、体験してもらいました。その後、その写真を編集し、お客様の希望に応じて印刷や、プロジェクターに映し出すことをしました。また、スマホを使った VR 体験<写真 2 参照>やエアド

ーム<写真3参照>に入ってもらい、360°の動画を見てもらいました。その他にも一般の方が THETA で撮影した写真などを展示させていただきました。このようあいステーションには家族やお年寄りが多く、特に小さい子供連れの家族には、VR 体験が人気で、お年寄りの方々には THETA の撮影が人気でした。

<写真2>

<THETA の貸し出し、VR 体験様子>



写真3

<エアドームの体験>



今回の活動での課題は、まず事前に決めていた担当部門をほとんど実施できなかったことです。事前に決めることはできていましたが実際にやってみると受付が予想よりも小さかったりお客さんが午前中はほとんどこなかったりなどした時にもなにも対処しようとしていないでそのままゆっくりしていたりしました。今後は事前に決めた上で現場に行った時に受付にずっと居るのではなく外で声をかけたり、積極的に呼び込みに行きたいと考えました。

もう一つの課題はゼミ生が事前に THETA の操作方法を予習していなかったことでした。また、人数が余っていたことが多かったので余った時のことも考えておくべきでした。時間帯による来場者の増加についてもっと考えるべきだったと思いました。

今後は、事前に役割を決めていたのだから、何をするかなど個人が確認し、当日にはその役割が果たせるようにしておきたいと思いました。また、ターゲット層も推測し、そのターゲットに適したプロダクトを提供していきたいと思いました。

東 弘祥

僕は今回の葛城市における宮城ゼミナールの活動を通じて考え学んだことはまず学外活動で市や企業がやることをお手伝いすることが初めてで来場者をどう呼んだらいいのかわからずとわからないままでした。午前のうちは人に話しかけることなどほとんどしなかったのですが、その後意を決して、呼び込もうとしましたが方法が悪かったのかほとんど断られ続けていました。しかし何十人と呼び込みをしていくと大人や子供、お年寄りによって呼び込みかたに違いを出せば呼び込みができるようになりました。このこ

とを踏まえ今後の学外活動にもこの重要な経験を生かしていきたいと考えました。

写真4 <THETA で撮影した写真>



朝田 光雄

全体的に客数が少なく、年齢も高齢者が多いように感じました。また若い方も少しはいましたが基本、親と一緒にくる小さい子であり、中高大生と思われる方を見た覚えがないぐらいでした。特に平日の午前の部では高齢者が1, 2グループ来たぐらいであり、あまり、お客様の姿を見ることはできませんでした。このままだと、高齢化していき、葛城市の文化の存在も忘れられていくため、若い方に注目を浴びる必要があると思いました。

また、THETAの貸し出しもあまり利用されることがありませんでした。これは誰かが借りて、楽しそうにそれを利用していないと借りづらいと思いましたので、借りられていないときは、スタッフが代わりに借り、楽しそうにしているところをアピールし、また、THETAの施設に来たお客様には積極的にすすめてたりすることができたように思いました。

<写真5> <THETA で撮影した写真>

